

子どものクローン病について

監修：国立成育医療研究センター消化器科診療部長
小児炎症性腸疾患センター長 新井勝大

クローン病とはこんな病気です

クローン病は、小腸や大腸の粘膜に慢性的な炎症が起きて、潰瘍(皮膚の表面のほうがなくなくなってしまう状態)やびらん(ただれ)ができる病気で、難病指定されています。肛門周囲に病変ができると強い痛みが出たり、いすに座っているのがつらくなったりすることもあります。クローン病の原因はまだ明らかになっていませんが、遺伝的要因と食事や生活習慣などの環境的要因が加わって、腸の免疫機能が過剰に働いてしまっている状態と考えられています。

クローン病の患者さんは、こんな症状に悩まされます

クローン病の症状で多いものは、下痢と腹痛です。小児のクローン病では、胃腸障害による症状がとぼしく、関節の痛みや発熱、貧血、脱力感などの症状が強くみられることがあります。また、小児では、成長障害が生じることがあります。肛門周囲の状態が悪くなると強い痛みによって、イスに座ることも難しくなります。

クローン病は、長く付き合う病気です

クローン病の患者さんは、活動期(炎症が活発で症状が悪化している時期)と寛解期(日常生活に問題がないぐらいに症状が落ち着いている時期)を繰り返すことになります。現在の医療では、完全に治る病気ではなく、寛解期を維持していくために、治療を続けていくことになります。

クローン病をもっているでもできることはたくさんあります

症状が落ち着いているときは、運動や食事に関する制限は軽減しますが、主治医の指示で食事制限を要することがあり、給食などで配慮をお願いすることもあります。症状が悪化している時期は、絶食や経腸栄養が必要となることがあります。



保護者からの声

学校生活全般

- 定期的な診療が必要なため、通院のために学校をお休みもしくは遅刻・早退することがあります。
- トイレの回数がほかの子よりも多く、授業中にも行くことがあるかもしれません。
- 排泄に関して、からかわれることを避けるため、教職員用のトイレを使わせていただくなど配慮をお願いいたします。

体育の授業に関して

- 症状が悪化している時期や入院などで体力が落ちている時期は、体育を見学させてもらうことがあります。

給食に関して

- 病気の状況により食事制限を要することがあります。
- 必要に応じて給食を残したり弁当を持たせたりするなどの対応をさせてもらうことがあります。

自由記入欄

氏名

緊急連絡先

・ _____ () ☎

・ _____ () ☎

受診している病院

病院名

診療科

☎

(代表もしくは直通)
